



れば實質的に争議團を應援し争議資金の有力なる供給をなさしめたる山下氏のこの態度は當時に於て町有志の物議の種となり陽に同氏を非難しその反省と決意とを求めたる向もありし哉に博へられたりしが同氏は依然として右の態度を改めず總て會社の争議は労働組合惨敗裡に解決を告ぐるに至りたり

其の旨の野田労働組合は全く昔日の^俤を殘さざるに至りたるは世間周知の如くなるが自木工場に於ける労働事情はこの環境裡に何等か事端の起るべき必然の運命に逢着したりと見るを得べし。即ち之を事業主側より見れば争議中並に争議后に於ける野田醬油株式会社工場の氣風全然穩健となり能率大いに上りたるにも拘はらず自家の工場は殆んど比較を許さざる程劣悪なりしを以て茲に何等かの方策を講じて尙面の一掃を圖らざるべからざるに思ひ至るは事の必至の勢なり。